



マイタケの花粉症モデルマウスに対する抗アレルギー作用



弊社研究所と富山大学大学院医学薬学研究部 応用薬理学研究室 安東嗣修准教授との共同研究の結果、マイタケが、花粉症のアレルギー症状を改善させる可能性を示す研究結果を得ました。

背景・目的

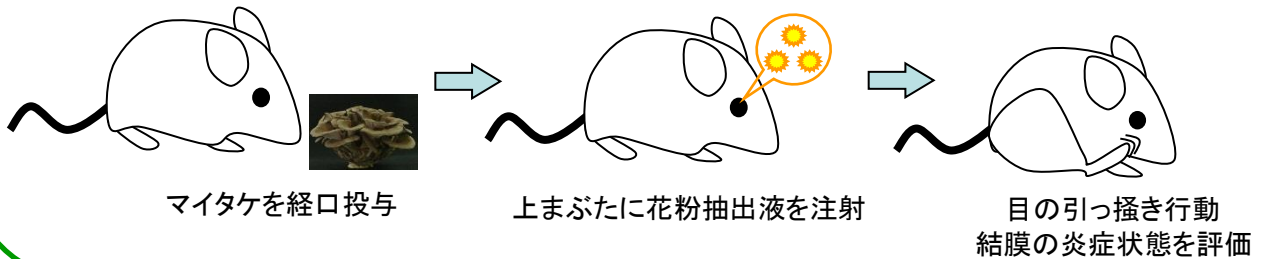
我々はこれまでに、マイタケの細胞レベルでの抗アレルギー作用を明らかにし、日本薬学会第133年会にて学会発表を行いました。本研究では、さらに動物レベルでのマイタケの抗アレルギー作用を明らかにするため、花粉症モデルマウスを作製し、マイタケ摂取の効果を検討しました。

実験方法

マウスにブタクサ花粉を3週間皮下注射することで花粉症モデルマウスを作製しました。

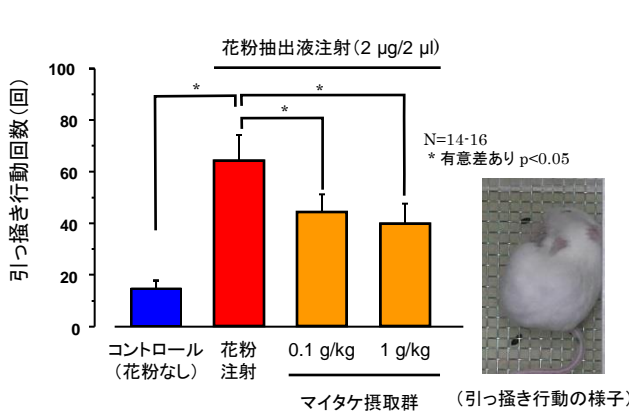
花粉症モデルマウスは症状により均一に群分けを行った後、マイタケ粉末を経口投与しました。投与1時間後にブタクサ花粉抽出液を上まぶたに注射し、後肢による目の掻き動作回数と結膜の炎症状態を評価しました。結膜の炎症は色素を尾静脈注射した同マウスにおいて、花粉抽出液注射後に結膜に漏出する色素量を測定することで評価しました。

花粉症モデルマウスを用いたマイタケの抗アレルギー作用の検証

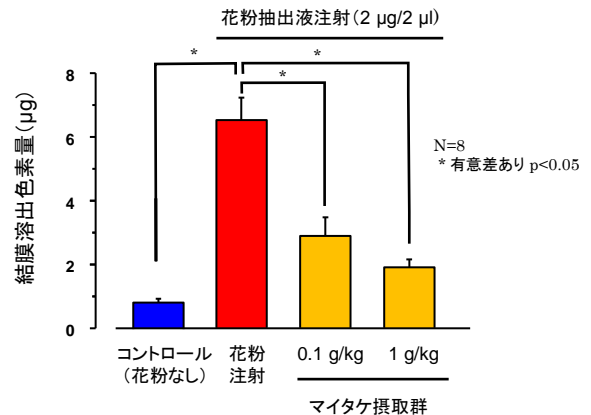


実験結果

マウスの引っ掻き行動の観察



結膜炎症の評価



ブタクサ花粉によって誘発される引っ掻き行動回数、結膜溶出色素量（炎症の指標）の増加が、単回のマイタケ摂取により、有意に抑制されました。

以上の結果から、マイタケは花粉症のアレルギー症状を改善する効果が期待できると考えられました。